情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2025 年 4 月 7 日作成 第 1.0 版

研究課題名	マルチオミクス解析を用いた髄膜腫再発および悪性化機序の解明
研究の対象	研究機関の長の実施許可日から 2030 年 3 月 31 日までに横浜市立大学附属市民総合医療センターで髄膜腫と診断され外科的治療を施行した患者さんを対象とします。
研究の目的	髄膜腫の治療において、病理学的に良性であっても、再発したり悪性化したりすることがあります。初回手術時の病理標本から予後因子を明らかにし、今後の診療や治療計画の検討に役立てることを目的としています。
研究の方法	診療録及び画像から情報を収集して、患者さんの予後や神経所見、最初及び悪性化の有無について検討します。 また、腫瘍摘出術の際に切除された腫瘍組織の残余を用いて病理像及び NF2、TRAF7、AKT1、KLF4 などの分子生物学的マーカーを解析し、予後との関係についても検討します。 いずれも通常の診療で得られた情報・検体を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究期間	西暦 2025 年 4 月 23 日（研究機関の長の許可日）～ 西暦 2036 年 3 月 31 日 試料・情報の利用、提供を開始する予定日：西暦 2025 年 4 月 23 日（研究機関の長の許可日）
研究に用いる 試料・情報の 項目	【試料】診療で採取された以下の検体を用います。 ・腫瘍摘出術時に切除された腫瘍組織の残余検体 【情報】診療録から以下の情報を収集します。 ・患者基本情報：年齢、性別、診断名、身長、体重、術前 KPS、既往歴、臨床病期 ・神経症候 ・治療内容（手術（到達法、摘出率、術前塞栓術、後療法） ・病理学的所見（髄膜腫の病理学的分類、悪性度） ・治療効果：腫瘍再発の有無（MRI で判定） ・治療後 5 年間の治療介入による出血や循環不全に起因する神経欠落症候（意識レベル、認知機能低下、片麻痺など）
試料・情報の 授受	本研究では、外部機関との検体・情報の授受はありません。 検体や情報は、当院で少なくとも 5 年間保管します。廃棄する際は、個人を特定できないように処理した上で検体は院内の規定等に従って廃棄し、情報は復元できない方法で廃棄します。

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

個人情報の管理	<p>検体・情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう管理する表（以下、対応表）を作成して、識別コードから個人を特定することが可能になりますが、その対応表は当院外へ提供することはありませんので、当院外の機関が個人を特定することはできません。</p>
試料・情報の管理について責任を有する者	<p>当院の個人情報の管理責任者は病院長ですが、その責務を以下の者に委任され管理されます。</p> <p style="text-align: center;">研究責任者：横浜市立大学附属市民総合医療センター 脳神経外科 坂田勝巳</p>
利益相反	<p>利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の関係を含むものです。本研究は、学内先進支援事業を用いて行います。本研究における開示すべき利益相反はありません。</p>
研究組織（利用する者の範囲）	<p>【研究機関と研究責任者】</p> <p>横浜市立大学附属市民総合医療センター 脳神経外科 坂田勝巳</p>
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて研究の対象の方もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究の対象の方に不利益が生じることはございません。ただし、拒否のお申し出をいただいた段階で既に研究結果が公表されていたときなど、データから除けない場合があります。</p>	
<p>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57</p> <p>横浜市立大学附属市民総合医療センター 脳神経外科</p> <p style="text-align: right;">（研究責任者・問い合わせ担当者）坂田勝巳</p> <p>電話番号：045 - 261-5656（代表） FAX：045 - 231 - 1846</p>	